

届けたい、**今**

4年間続いている『名古屋地区・震災ボランティア学生交流会』を通して、学生のボランティア活動を支援!

名古屋学院大学 社会連携センター 杉山 晃一

東日本大震災の発災から5年が過ぎようとしている今でも、多くの大学生が被災地に思いを寄せて地道に支援活動を続けています。彼らは、「自分たちにできることを精一杯したい」という熱い思いがありながら、さらに発展・継続させるためにはどうしたら良いのかという悩みを抱えている場合も少なくありません。そのような学生たちの交流や情報交換の場として、2012年度より『名古屋地区・震災ボランティア学生交流会』を年に1度開催しています。主な参加大学は9校(愛知、愛知学院、愛知淑徳、中部、名古屋学芸、名古屋経済、日本福祉、名城、名古屋学院)で、毎回80名程の学生が参加しています。

大学の取組として学生が被災地支援に関わる場合、社会人を中心とした団体とは異なる工夫が必要になります。一番大きな課題は「継続性」です。4年間という限られた活動期間中に、先輩から後輩へとスムーズに継承していかなければなりません。2011年3月11日に在学し甚大な被害を目の当たりにした学生は、ほとんど卒業しているのが現状です。

こうした大学生特有の状況をふまえ、この交流会では話し合うテーマを進展させてきました。初回の2012年度は、互いの大学がどのような支援をしているのかをまず知るために、活動内容の共有を重視しました。また、宮城県にある東北学院大学の教職員や学生、そして被災地の最前線で活動を展開しているNPO法人レスキューストックヤードの職員をお招きして、学生が今すぐにでもできることについて議論を深めました。

一方で、第4回目となる今年度は、交流会の主題を「つながる つづける ささえる ボランティア」として、各大学が被災地支援活動をどのように続けているのか、また愛知県でどのような支援ができるのか等の9テーマについて、ワールド・カフェ形式()で話し合いました。共通して聞かれたのは、東北での活動を通して減災・防災に関する実践的な知識や経

験が蓄積してきているものの、新しく入ってくる学生へ「想い」をどのように伝えていくか、また支援内容の「集約」をどのように図っていくかを思案しているという声でした。学生自らが言葉に表すことで現状の問題を整理でき、これからの活動のヒントをつかむことができたことを確信しています。

今後も、名古屋地区での学生ボランティア活動が発展していくよう、各大学が協力してこの交流会を盛り上げていきます。ご興味ある方は、ぜひご連絡ください!!



2015年11月28日(土)に行われた『名古屋地区・震災ボランティア学生交流会』の様子

Information

名古屋学院大学 社会連携センター
〒456-0062 名古屋市熱田区大宝3-1-17
名古屋キャンパス 日比野学舎
TEL: 052-678-4085 FAX: 052-682-6813
E-mail: upr@ngu.ac.jp

東日本大震災から5年。今も復興に向け、がんばっている人々を支援する団体、たくさんのボランティアたち。忘れないこと、寄り添うこと...。その思いを胸に、自分たちにできることを問いつづけ、行動をつづける2つの団体に、これまでとこれから、そして活動に寄せる思いを届けていただきました。

全国組織、配達業務のメリットを生かし、物資支援を通して一人ひとりの暮らしに寄り添う

生活協同組合コープあいち 牛田 清博

東日本大震災・原発事故から5年が経ちました。被災地域の状況や被災された方の心境などをお聴きするたび、引き続きの寄り添い活動が必要な状況です。

生活協同組合のコープあちは、全国にある約600の生協とともに発災後すぐにトラックに緊急物資を積み込み、東日本大震災の被災県へ運転者とともに駆けつけました。全国の生協もいち早く、被災地への支援活動を開始。2011年4月6日までに食料品・飲料水、毛布・タオルなど1170万点(10トトラック633台分)を被災地に届けました。4月28日までにトラック延べ1190台、支援者延べ3587人を派遣し、食品や燃料を含む約71万点(トラック約370台分)の物資支援が行われました。生協はそれぞれが独立していますが、いざというときは全国組織のメリットを生かして、被災地域の緊急物資協定に基づき生活物資をお届けします。そのために日常的に全国・地域ブロック・県単位で訓練を行っています。



2011年12月こたつやファンヒーターなどの物資配達

その後、コープあちは東北被災県へ、主にNPO愛知ネットからの依頼で岩手県気仙地域(陸前高田市、大船渡市、住田町)の中小の避難所での炊き出しを気仙地域の市民団体のみなさんと共に始めました。この時に組合員からいただいた新品のタオル(約23万枚)も市民団体のみなさんと一緒に配りながら広がったことがきっかけで、現在も市民団体や被災地のみなさんとの関係が続いています。現在は地域コミュニティの再興に少しでもお役に立てるように、運動会

やお祭りに合わせてツアー企画で応援に行くなどの活動をしています。



一方、東日本大震災直後から、原発事故も重なり広域から避難される方が愛知県へ続々と避難されて来ました。避難される方のためにいろいろな企業から物資が愛知県にも届きましたが、避難されてきた方に、行政から届ける手立てや予算がありませんでした。しかし、何も持たずとにかく避難されてきた方が多く、運搬のための車もありません。そんな時、生協は配達という仕組みには慣れているので、物資も希望があれば運ぶことにしました。それがきっかけで現在も年2回訪問しながらお米等をお渡しする活動を、愛知県被災者支援センターと飛島村、愛知経済連のご協力で行っています。ここで大切なことは一人ひとりの違う暮らしに寄り添い、当事者が自分らしく生活できるように支える=パーソナル・サポート支援の考え方です。愛知県被災者支援センターはこの考え方に基づきサポートをしてきていることが大変すばらしいと思います。これは、愛知県で災害が発生した際の基本の考え方にもしていきたいことです。

Information

生活協同組合 コープあいち
〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39
TEL:052-781 6161 FAX:052-781-8833
E-mail: kushida@tcoop.or.jp